

## 今週（11月28日から12月2日）の短期金融市場動向

### ●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、引き続き資金調達ニーズの弱い展開となった。無担保コールO/N物は、週を通して▲0.08%前後での取引が中心となり、加重平均レートは28日に▲0.077%、29日は▲0.078%、30日と12月1日は▲0.079%と、極めて低い水準での取引が続いた。2日は、国債の発行や税揚げ等により大幅な資金不足となったものの、レート水準に大きな変化は見られず、概ね横這い圏での推移となった。

ターム物に関しては、足元のレート水準を反映し、ショートターム物を中心に▲0.07%台での引き合いが散見された。

日銀当座預金残高は、週前半は493～494兆円程度での推移となっていたが、週後半には国債の発行や法人税・年金保険料の揚げなどにより、480兆円程度まで大きく減少する見込みとなった。

### ●レポ市場

今週のGC O/N物は、月曜から火曜は▲0.14～▲0.11%程度、水曜は▲0.13～▲0.10%程度、木曜から金曜は▲0.12～▲0.10%程度となった。週を通して、概ね▲0.14～▲0.10%程度での推移となるなか、徐々にレート水準を切り上げる展開となった。

SCは、カレント銘柄近辺やチーペスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

### ●短国市場

今週の短国市場は、動意なく閑散となる中、6Mゾーンがやや堅調に推移する展開となった。また、2日に実施された3M物入札は、順調な結果となり、結果発表後のセカンダリーマーケットでも堅調な推移が見られた。

短国買入オベは、29日に前回と同額の1,000億円でオファーされ、按分利回り較差+0.006%、平均落札利回り較差+0.006%と、無難な結果となった。

### ●CP市場

今週のCP発行市場は、年末に向けた資金需要が高まる中での月末発行となり、機械・鉄鋼・化学等、複数の業態から大型発行が実施された。その結果、11月30日時点で市場残高は9月以来となる28兆円台を回復し、高水準での推移となっている。発行レートは、引き続き投資家の玉確保ニーズが強く、1Mから3M程度の銘柄では概ね0%近辺での決着が中心であった。また、発行残高の少ない銘柄では浅いマイナスでの発行が見られるなど市場レートは低下基調となっている。

### ●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
11/28 (月)	28,162.83	0.250	139.06	△ 0.077	△ 0.131	4,933,100
11/29 (火)	28,027.84	0.250	138.85	△ 0.078	△ 0.121	4,939,700
11/30 (水)	27,968.99	0.250	138.80	△ 0.079	△ 0.128	4,941,100
12/1 (木)	28,226.08	0.250	136.25	△ 0.079	△ 0.119	4,887,500
12/2 (金)	27,777.90	0.250	135.50	△ 0.078	△ 0.114	4,794,300

# 来週（12月5日から12月9日）の短期金融市場動向

## ●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
12/5 (月)	12月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)				10月の米製造業新規受注・出荷・在庫 11月のISM 非製造業景況指数
12/6 (火)	10月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 10月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30)	30Y 9,000億円 12/7発行	交付税借入 13,000億円 12/15借入		10月の米貿易収支
12/7 (水)	長野県金融経済懇談会において中村日銀審議委員講演 11月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 10月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)				10月の米消費者信用残高 7-9月期のユーロ圏GDP確報値
12/8 (木)	7-9月期のGDP 2次速報(内閣府 8:50) 10月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 11月の景気ウォッチャー調査(内閣府 14:00)	TB6M 40,000億円 12/12発行	5Y 25,000億円 12/9発行	エネルギー 対策借入 6,800億円 12/20借入	
12/9 (金)	11月のマネーストック(日銀 8:50) 10月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30)	TB3M 60,000億円 12/12発行			11月の米生産者物価指数 10月の米卸売売上高 12月のミシガン大消費者信頼感指数速報

## ●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
12/5 (月)	▲ 1,100	▲ 900	▲ 2,000	国債買入 国債補充 CP買入 社債買入		13,100	21,200	19,200	TB3M発行▲60,000償還56,000
12/6 (火)	▲ 1,500	1,000	▲ 500				0	▲ 500	
12/7 (水)	▲ 1,500	▲ 9,000	▲ 10,500	全店共通	▲ 1,500		▲ 1,500	▲ 12,000	30Y発行▲9,000
12/8 (木)	▲ 2,500	1,000	▲ 1,500				0	▲ 1,500	
12/9 (金)	▲ 2,000	▲ 19,000	▲ 21,000				0	▲ 21,000	5Y発行▲25,000 交付税借入▲13,000期日13,000
週間合計	▲ 8,600	▲ 26,900	▲ 35,500	—	6,600	13,100	19,700	▲ 15,800	

12/5は日銀予想、12/6以降は当社予想

## ●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、積み期終盤に入る事から、様子見姿勢を取っていた先からの調達も見込まれるが、調達量が大きく上振れる事は想定し辛く、レート水準は若干の上昇に留まる事が予想される。債券レポGC O/N物は、▲0.12～▲0.09%程度での推移が予想される。短国市場は、8日に6M物、9日に3M物の入札実施が予定されている。また、6日に実施が予想される短国買入オペは、1,000億円程度が見込まれる。CP市場は、年末を控えて案件がどの程度膨らむか注目される。また、8日にCP等買入オペが4,000億円で実施予定となっており、結果が注目される。

主要なイベントは、国内では、8日に7-9月期のGDP 2次速報(改定値)、海外では、5日に11月のISM 非製造業景況指数、7日に7-9月期のユーロ圏GDP確報値などの発表が予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。  
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされまようお願い申し上げます。  
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をこ負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入